

3 教科指導

	重点目標	具体的目標	具体的方策	評価
教科指導 (国語)	学力向上	わかりやすい授業を実施する。	授業進度、指導内容等を、綿密に打ち合わせる。	
			適宜、相互に授業見学等を行い、資質の向上に努める。	
		基礎学力を向上させる。	学習到達度確認問題（小テスト）で80%以上の合格を目指し、基礎事項を定着させる。	
			学習に見通しを持たせつつ、課題等に取り組み、学習習慣を確立させる。	
		実践力を養成する。	各学年部と協力して、小論文の添削指導、読書指導を行う。	
過去の入試問題を研究させ、解説を加える。				
史・科 ・公民 指導 (地理 歴史)	学力向上	学年、科目に応じたきめ細かい指導を行う。	授業展開を工夫することにより、生徒の関心を喚起する。	
			学習到達度確認問題（小テスト）を実施し、基礎学力の向上を目指す。	
		大学入試に対応できる学力を養成する。	進研模試（2年11月以降）の各科目の平均点偏差値が、50以上になるようにする。	
			大学入試共通テストの各科目の校内平均点が、全国平均点を上回ることを目指す。	
教科指導 (数学)	学力向上	充実した授業を行う。	幅広い学力に対応した授業展開や指導法を考え、授業の資質向上を目指す。	
			個々の生徒に応じて指導する。	
		基礎から応用まで幅広い学力を養成する。	個々の生徒に応じた課題を工夫する。	
			学習到達度確認問題（小テスト）や反復練習などで計算力の向上と基礎的・基本的内容の理解と定着を図る。	
実戦問題を通して、応用力を養成する。				
教科指導 (理科)	学力向上	授業内容を充実させる。	実験、観察を取り入れ、知的好奇心を引き出す。	
			ICT機器を活用し双方向対話型授業を行い、生徒同士の意見交換を活発にさせる。	
		進路希望達成に必要な学力を養成する。	小テスト等の時間を通して、基礎学力を定着させる。	
			実験や考査の工夫を通して共通テストに必要な学力を養成する。	
		教員研修を実施する。	理科教員間で相互に授業を参観し、授業に関する資質向上を図る。	
教科会で、科学最新事情や入試問題についての情報交換を行う。				

	重点目標	具体的目標	具体的方策	評価	
教科指導 (英語)	学力向上	個々の進路実現に必要な学力を養成することとおして、英語を用いてグローバル社会に貢献する人材を育成する。	3年次において、大学入学後まで見据えた、総合的な英語力のさらなる育成を目指す。		
			2年次において、大学入学後まで見据えた、総合的な英語力の育成を目指す。		
			1年次において、英語における基礎力の養成を目指す。		
	実用的な英語運用力を養成する。	3年次において、英語の科目間の連携を図り、4技能のバランスのとれた英語力を養成し、6割以上の生徒が英検2級以上を取得、またはCEFRでB1であることを目指す。	2年次において、英語の科目間の連携を図り、4技能のバランスのとれた英語力を養成し、4割以上の生徒が英検2級以上を取得、またはCEFRでB1であることを目指す。		
			1年次において、英語の科目間の連携を図り、4技能のバランスのとれた英語力を養成し、7割以上の生徒が英検準2級以上を取得、またはCEFRでA2であることを目指す。		
			教員の教科指導力を養成する。	教員相互で授業参観を行い、技能や知識の共有を図る。	
	教員の教科指導力を養成する。	基本的な英語で授業を行う。	校内・校外研修の協議会や報告会を行い、より効果的な指導法を探り、実践する。		
	教科指導 (保健体育)	体力・健康の増進および運動量の確保	運動を通して体力と気力、他者と協力する態度を養う。	体力づくり運動として持久力トレーニングを多く取り入れ、持久走(約3～4km)を行う。	
毎時の準備運動の中で補強運動(体力づくり運動)を実施し、体力・筋力の向上と他者との協力・協働、コミュニケーション能力の向上を図る。					
授業規律の確保および公正、協力、フェアプレイの態度を育成する。		天候や体調等に合わせた体操着を正しく着用させ、身だしなみを整えることの大切さを意識させる。	授業における準備や後片付けなどを協力して行わせる。		
			競技や運動の特性に合わせて、楽しく運動する。	運動の技術・技能を向上させるとともに、種目選択を通して運動の楽しさと喜びを体験させ、より主体的で継続的な取り組みを促す。	
成果				総合評価	